

シロクマのクウ
生徒指導の三機能と道徳の時間との関連を生かした指導

学校名（江田島市立鹿川小学校）

- 1 学 年 第2学年
- 2 主題名 自分の力で【1－（2） 勤勉・努力】
- 3 ねらい つらくてもがんばったクウの気持ちを考えることを通して、自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかりと行おうとする心情を育てる。
- 4 資料名 シロクマのクウ（出典 文部科学省 小学校道徳 読み物資料集）
- 5 授業の展開例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	留意点
導 入	1 しなければならない勉強や仕事について考える。	○自分でしなければならないことは、何がありますか。 ・学習，そうじ，係の仕事	○生活を振り返り，本時のねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展 開	2 資料を聞いて，話し合う。 3 自分の生活を振り返る。	○困るでしょうと言われたクウは，どんなことを考えたでしょう。 ・魚がとれないと生きていけないから困る。 ○魚がつかまらないクウは，どんな気持ちでしょう。 ・くやしいな。 ◎「よし」と言うまでクウは，しばらくどんなことを考えていたのでしょうか。 ・どうやったら魚がとれるのかな。 ・生きていくために魚がとれないと困るから，あきらめないで，がんばるぞ。 ○魚がとれたクウは，どんな気持ちでしょう。 ・魚がとれて嬉しい。 ・がんばってよかったな。 ○自分がしなければならないことを，がんばったことがありますか。 ・合格証テストをがんばりました。	○魚をとらなければクウは生きていけないことを押さえ，ねらいに迫ることができるようにする。 ○ワークシートに考えを書かせ，クウの気持ちをじっくり考えさせる。 ○しなければならない事に粘り強く取り組むことの大切さを考えさせるために，がんばる気持ちを取り上げ，その理由を聞く。 ○自分とのかかわりで道徳的価値を捉えさせるために自己を振り返らせる。
終 末	4 自分のがんばった姿を見る。	○2年生にもたくさんのクウがいるので，見てみましょう。 ・係や掃除の仕事をがんばっているな。	○映像で，児童のがんばる姿を示し，がんばっている自分に気付かせる。 (自己存在感を与える)

活用に生かすための実践報告

江田島市立能美中学校区

1 地域や児童生徒の実態

能美中学校区は、小学校3校と中学校1校からなり、小規模校でクラス替えがなく、人間関係が固定化しやすい。このことは、自分の気持ちを相手に伝えたり、相手の心情を思いやったりするなど、豊かな人間性を築いていく機会が少ない状況にあるともいえる。

第2学年の児童は、係の仕事やそうじ当番など日常の行動に真面目に取り組むことができる児童が多い。しかし、学習においては、苦手なことに対して、親や教師からの働きかけがないと、消極的になったり、粘り強く努力し続けることが難しくなったりする児童もいる。

2 教材開発及び指導過程の工夫

児童に苦手な勉強や仕事にも進んで取り組もうとする心情を育てたいと考え、本資料を扱い、学習前に学級活動で「がんばったこと見つけ」を行い、その後も帰りの会でこの活動を継続的にを行い、児童が道徳的価値について振り返りやすいように工夫した。

また、中心発問について考えさせる場面では、ワークシートに書く時間を確保し、一人一人がしっかりと考えを持つことができるようにした。さらに、自分の生活を振り返る場面では、映像で全児童のがんばる姿を示し、自己存在感を与えることにつながるようにした。

3 発問の工夫

しっかりとねらいに迫ることができるように、導入では生活を振り返り、本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを行った。ま

た、主人公のつらい気持ちに共感させた後、中心発問を行い、つらくてもがんばることの大切さを考えることができるようにした。

4 児童生徒の反応

中心発問「よしと言うまでに、クウはしばらくどんなことを考えたでしょう。」に対して、児童から「もっと練習するぞ。」や「あきらめないでがんばるぞ。」という考えが出た。そこで、考えを深めるために、「クウは、どうしてがんばろうと思ったの。」と理由を尋ねると、児童は少し戸惑っていたが、「自分で魚がとれないと困るから。」など自分の力でがんばることの大切さを考えて発言していた。

5 成果と課題

中心発問について考えさせる場面では、ワークシートに書く時間を確保し、一人一人がしっかりと考えを持つことができるようにしたため、その後も考えを深めていくことができた。

また、自分の生活を振り返る場面では、映像で全児童のがんばる姿を示し、自己存在感を与えることにつながるようにした。このことは、自己存在感を与えるだけでなく、教師の肯定的評価が実践意欲につながり、授業後に逆上がりの練習をがんばる児童の姿などが見られた。

今後も、能美中学校区で連携を図りながら、生徒指導の三機能と道徳の時間との関連を生かした取組を行う。また、発達段階に応じた指導を継続的に行うことにより、集団や社会の一員としての自覚と責任を育み、道徳的実践力の向上を図る。